

OKI *Open up your dreams*



株主のみなさまへ

第96期中間報告書

2019年度

(自2019年4月1日 至2019年9月30日)

OKIならではの技術や強みを活かして、社会課題の解決に取り組み、新しい価値を提供していきます。

株主のみなさまには平素よりOKIグループの経営に対しまして多大なご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、今夏以降の台風などによる豪雨、暴風雨で被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復興を、グループ社員一同心よりお祈りいたします。

これからの社会においては、デジタル化の加速によってIoT端末が飛躍的に拡大し、ネットワーク上のデータ量は爆発的に増加することが想定されます。このような状況の下で安全で快適なサービスを維持するには、クラウド側の負荷とリスクを軽減する必要があります。すなわち、エッジ領域において高速でリアルタイムな処理を実現することです。加えて、今後IoTの進展とともに拡大する端末は、パーソナル端末から産業用途や医療向けが中心に変わっていくと考えられます。

OKIは、特長ある端末を製造する独自の技術や、ネットワーク、センシングの技術をベースに、エッジ領域に特化して長きにわたって社会インフラを支えてまいりました。こうしたビジネスの蓄積と強みのある技術を活かして、新しい商品・サービスを提供し、お客様との共創を通じてこれからの社会のニーズに確実に応えてまいります。

2019年12月

代表取締役社長 鎌上信也

2019年度第2四半期累計期間業績

売上高

前年同期 1,936億円
 当期 2,184億円
 通期予想値 4,600億円

営業利益

前年同期 8億円
 当期 52億円
 通期予想値 185億円

親会社株主に
 帰属する
 四半期
 純利益

前年同期 -26億円
 当期 41億円
 通期予想値 140億円



詳細はこちらから

第2四半期累計 業績の ポイント

- 情報通信事業は、社会インフラおよびネットワーク関連案件の増加により順調
- メカトロシステム事業は、前年に行った構造改革の効果により前年比利益良化
- プリンター事業は為替影響、EMS事業はFA・半導体関連売上減により前年比減収減益

第2四半期累計期間の売上高は、情報通信事業における大型案件および工事進行基準の適用範囲の拡大により前年比増収となりました。営業利益は、情報通信事業の増収やメカトロシステム事業にて前年に行った事業構造改革の効果により増益となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、ブラジル子会社の事業譲渡に関する事業構造改善費用を特別損失として計上したものの、増収の効果に加えて資産等の売却に伴う特別利益を計上したことなどから、前年比で大きく改善しました。

AIエッジコンピューティングによる高度IoT社会の実現

近年、ディープラーニングに代表されるAI技術やセンサー技術、5Gをはじめとするネットワークの進化により、IoTとAIの組み合わせによる社会課題の解決が期待されています。その一方で、爆発的に増えるIoTによってネットワーク、クラウドコンピューターへの負荷が増大し、さらにはIoTを標的としたセキュリティへの脅威が拡大しています。そのため、クラウドを介さない即時応答性やネットワークへの負荷を分散すること、そのうえで高信頼性を確保することが課題として顕在化してきました。

OKIIは、「社会インフラ×IoT」によりさまざまな社会課題を解決するため、60社を超える共創パートナーと数多くのPoC (Proof of Concept: 評価・検証) を重ね、交通、建設/インフラ、防災、金融・流通、製造、海洋の注力分野で、デジタル変革に取り組んできました。

その成果のひとつとして、2019年度よりエッジ領域 (IoTのデータが発生する現場) でAI技術を適用した、エッジコン

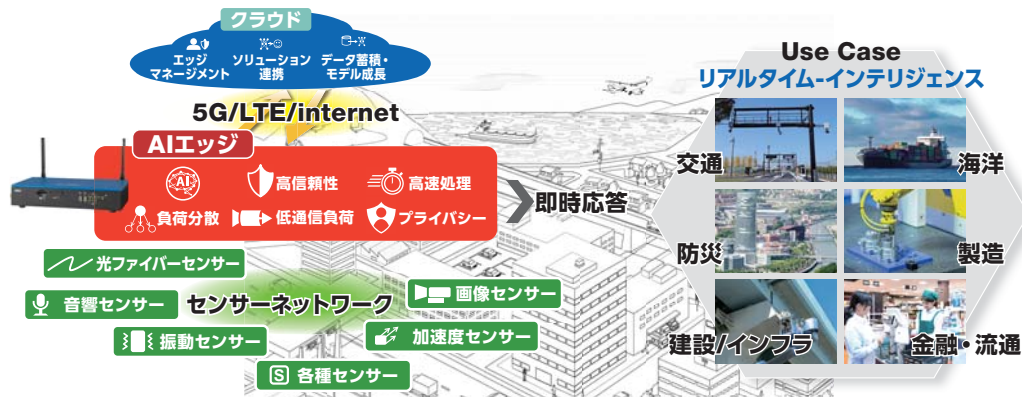
ピューティングへの取り組みを推進しています。そして主力商品となるAIエッジコンピューター「AE2100」を、インテル株式会社、日本マイクロソフト株式会社の両社を戦略パートナーとして、2019年10月より販売開始しました。これは、OKIIのIoTビジネスプラットフォーム商品群を大幅に強化するものです。

「AE2100」はAI-Ready、IoT-Ready、Security-Readyの3つの「Ready」を特長とし、社会インフラに要求される過酷な屋外設置環境でも動作可能な耐環境性を備えています。

OKIIは、従来提供してきたIoTビジネスプラットフォームを整備し、AIアプリケーションと各種センサーを組み合わせたAIソリューションを提供していきます。さらに、さまざまなパートナーとともに「AIエッジパートナーシップ」をエコシステム*として構築し、ソリューションの創出や事業機会の獲得を推進していきます。

*エコシステム: 企業や顧客などパートナー間の、分業と協業による共存共栄の関係

■AIエッジコンピューティング・コンセプト



「AIエッジコンピューティング」の詳細はこちらから

OKIグループの環境への取り組み

OKI環境チャレンジ2030/2050を制定

深刻化する気候変動、社会課題の解決に、より力強く寄与するため、中長期環境ビジョンとして「OKI環境チャレンジ2030/2050」を2019年4月1日に策定しました。OKIグループの総合力を活かし、目標の達成に向けてチャレンジしていきます。

OKIグループは、「環境と事業が融合することで、OKIが生み出す価値を最大化すること」を目指して環境経営を推進しています。「OKI環境チャレンジ2030/2050」はOKIのこうした「環境への取り組みと企業成長の好循環」を、持続可能な開発目標SDGsと結び付けることで、加速させることを狙っています。例えば、長年手掛けてきた防災システムはSDGsの目標13「気候変動に具体的な対策を」や目標11「住み続けられるまちづくりを」につながります。お客様の物流効率の改善に寄与するITSサービスの提供は、温暖化の防止を含むSDGs目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」に貢献するものとして位置付けられます。また、商品・サービスを生み出す事業

活動においても、省エネルギーや省資源という環境負荷の低減は、SDGsにもコストダウンにもつながる事業活動としても深く浸透しています。

TCFD提言に賛同

さらにOKIは、2019年5月、気候変動に伴うリスクや機会にどう取り組むかを情報開示するよう求める「気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD*)」提言に賛同表明しました。OKIでは、TCFD提言が焦点とする気候変動にとどまらず、資源や化学物質にも範囲を広げ、今後の環境に関して想定される事象を設定し、その事象がOKIにとってどのようなリスクと機会をもたらすのか、どのように対応すべきかを検討し、将来の財務影響を見据えた実効性の高い施策をグループ全体で進めています。例えば、気候変動の激甚化は工場を操業する上ではリスクであり、防災システムのような商品販売においては機会となります。こうした検討を社長のイニシアチブで推進し、本社の環境専門部門にて事業部門や研究開発部門、調達部門な

どと協議しています。これらの検討結果は経営会議(もしくは経営者)に報告されます。

OKIグループは未来を見据え、環境経営と情報発信を推進してまいります。

※ TCFD(Task Force on Climate-related Financial Disclosures): 気候変動に対する企業の対応について、投資家への情報開示の必要性を勧告する提言

OKI環境チャレンジ2030/2050(概要)

1 温暖化防止

ライフサイクルCO₂排出量* 2030年度40%削減
2050年度80%削減(2013年度比)を目指す。



2 SDGs達成への貢献

以下の①②を通じて2030年のSDGsが定める環境負荷の低減効果の目標の達成に貢献する。

- ①幅広い環境課題の解決に資する商品やサービスのイノベーションの創出とソリューションの提供。
- ②事業場を含むサプライチェーンにおける、革新的なモノづくり・コトづくりの実現。



* ライフサイクルCO₂排出量: 調達→事業拠点→物流→お客様による製品使用→使用済み製品の廃棄、の各プロセスにおけるグループ全体のCO₂排出量



「環境への取り組み」の詳細はこちらから

人手不足の解消を実現するサービスロボット 「AIエッジロボット」を開発

深刻な社会課題となっている人手不足の解消を実現するサービスロボットコンセプトの試作機として、AIエッジコンピューターを活用した「AIエッジロボット」を開発しました。サービスロボットへの期待が高まる一方で、現状の自律動作ロボットの能力には限界があります。「AIエッジロボット」は、音・振動・画像などの多様なセンサーへのインターフェースを持ち、AIによる自律動作と運用センターからの遠隔操作を組み合わせることで、多種のサービスを高い稼働率で提供できます。施設点検、防犯・見守り、搬送・品出しなど幅広い用途での活用が可能となる「AIエッジロボット」により、さまざまなサービス現場での省力化の実現と作業効率の倍増を目指します。



ロボット本体
運用センター
(コックピット)

経済産業省の「IT経営注目企業2019」に選定

経済産業省と東京証券取引所が共同で実施する「攻めのIT経営銘柄2019」において、「IT経営注目企業2019」に選定されました。IoTを活用して社会課題解決に挑む商品・サービスの提供や、グループ全体で人材および組織文化の改革に取り組むイノベーション創出活動「Yume Pro」が、国連が掲げる「持続可能な開発目標(SDGs)」の観点から高く評価され、今回の選定につながりました。



「攻めのIT経営銘柄2019」
「IT経営注目企業2019」発表会

インダストリー市場向けプリンターの戦略商品を発売

多品種化したアイテムを識別し、特長をアピールできるラベル印刷の需要が増加している食品、飲料、物流業界をターゲットに、世界初の幅狭カラーLEDラベルプリンターを発売しました。本商品は、小ロット多品種に対応したカラーラベルのオンデマンド印刷を実現したほか、耐候性や耐水性に優れ、また普通紙だけでなく合成紙や透明フィルム(PET)などを基材としたさまざまな粘着ロールラベル紙への印刷が可能です。さらに、白色印刷によって*、透明フィルムや色付きラベルへの印刷において豊かな表現を実現します。

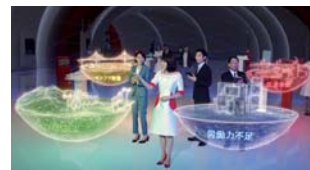


カラーLEDラベルプリンター
[Pro1050/Pro1040]

* 白色印刷はPro1050のみ

新CM「IoTの力で社会課題を解決!」を開始

女優の広瀬アリスさんを起用した新CMの放映を開始しました。OKIは、創業以来培ってきた顧客基盤と、その実績を基にしたOKIならではのデバイス群、センシング技術、ネットワーク技術、データ処理・運用技術やノウハウを活かし、SDGs に掲げられた社会課題の解決への貢献を目指しています。CMでは、自然災害、労働力不足、交通事故、インフラ整備など、さまざまな社会課題にIoTで挑み続けているOKIの姿を、ショールームの社員に扮した広瀬アリスさんが、明るくユニークにお届けします。



新CM「IoTの力で社会課題を解決!」

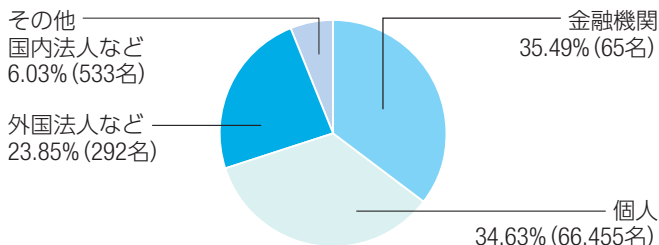
発行可能株式総数: 240,000千株
 発行済株式の総数: 87,217千株(自己株式688千株含む)
 株主数: 67,346名

大株主

株主名	所有株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,374	8.52
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,908	7.98
沖電気グループ従業員持株会	1,944	2.25
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	1,664	1.92
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,449	1.68
株式会社みずほ銀行	1,419	1.64
ヒューリック株式会社	1,407	1.63
明治安田生命保険相互会社	1,400	1.62
JP MORGAN CHASE BANK 385151	1,358	1.57
GOVERNMENT OF NORWAY	1,332	1.54

※持株比率は、自己株式(688千株)を控除して算出しています。

所有者別分布



事業年度
 4月1日から翌年3月31日まで
 剰余金の配当の基準日
 3月31日
 なお、中間配当を行うときの基準日は9月30日

定時株主総会
 6月

同総会の議決権の基準日
 3月31日

その他必要があるときは、取締役会の決議によりあらかじめ公告いたします。

公告方法

電子公告により行います(ホームページアドレス <https://www.oki.com/jp/>)。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載してこれを行います。

株式上場

東京証券取引所市場第1部

証券コード

6703

株主名簿管理人

みずほ信託銀行株式会社
 東京都中央区八重洲1丁目2番1号

株式事務のお問い合わせ先

	証券会社に口座を お持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
電話お問い 合わせ先	お取引の証券会社になります。	0120-288-324(フリーダイヤル) (土・日・祝を除く 9:00~17:00)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店* みずほ証券株式会社 本店および全国各支店
未払配当金の お支払	みずほ信託銀行 本店および全国各支店* みずほ銀行 本店および全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。

※トラストラウンジではお取扱いできませんので、ご了承ください。

株主インフォメーション

単元未満株式ご売却のご案内

単元未満株式(100株未満の株式)をご売却いただけます。

◆ 証券会社の口座でお持ちでない株主様

同封の「単元未満株式買取請求取次依頼書」に必要事項をご記入・ご捺印のうえ、みずほ信託銀行へご提出いただきますと、手数料無料でご売却いただけます。

【お問い合わせ先】みずほ信託銀行(フリーダイヤル 0120-288-324)

◆ 証券会社の口座でお持ちの株主様

お手続き・手数料につきましては、口座をお持ちの証券会社にお問い合わせください。

第96期配当金のご案内

今期の配当は、期末配当50円を予定しております(中間配当はございません)。

過去の配当金のお受け取りについて

下記の配当金のお支払期限が迫っております。まだ、お受け取りになられていない場合には、みずほ信託銀行までご連絡ください。

【お問い合わせ先】みずほ信託銀行(フリーダイヤル 0120-288-324)

- 第91期 期末配当金(2015年6月お支払い開始): 2020年6月25日まで
- 第92期 中間配当金(2015年12月お支払い開始): 2020年12月7日まで

ホームページ・ニュースメールのご案内

- 決算情報や証券取引所へのファイリング情報など、さまざまな情報を掲載しています。

<https://www.oki.com/jp/ir/>

- ニュースメールとして株主・投資家のみなさま向け情報を随時配信しています。ぜひお申し込みください。

<https://www.oki.com/jp/ir/nm/>

見直しに関する注意事項

本報告書にはOKIの戦略、財務目標、技術、商品、サービス、業績などの将来予想に関する記述が含まれています。こうした記述は、現在入手可能な仮定やデータ、方法に基づいていますが、これらは必ずしも正しいとは限りません。また、これら将来予想に関する記述は、OKIの分析や予想を記述したもので、将来の業績を保証するものではありません。これらの記述はリスクや不確定要因を含んでおり、さまざまな要因により実際の結果と大きく異なることをあらかじめご承知願います。

- ※ 金額単位の表示: 本中間報告書においては、億円単位未満を四捨五入しています。
- ※ 冲電気工業株式会社は、グローバルに認知される成長企業を目指し、通称をOKIとします。
- ※ 記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

冲電気工業株式会社

本 社: 〒105-8460 東京都港区虎ノ門1丁目7番12号(虎ノ門ファーストガーデン) TEL. (03) 3501-3111 (大代表)



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



投資家情報は
こちらから